

人口減少対策調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和8年6月22日（月）
午前9時23分 開会
午前10時43分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 西田 真
副委員長 荒木 慎太郎
委 員 太田 智博、芹澤 正志、
竹中 理、福田 嗣久、
森垣 康平
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 橋本 郁夫、佐田 美佐樹
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

人口減少対策調査特別委員長 西田 真

人口減少対策調査特別委員会 次第

日 時：2026 年 6 月 22 日(月) 9:30～

場 所：第 1 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 事務概要委員会所管事項の現状について

【市長公室】 経営企画課

【くらし創造部】 地域づくり課

【こども未来部】 こども未来課

【産業経済部】 環境経済課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) 管外行政視察について

(4) その他

4 閉 会

人口減少対策調査特別委員会名簿

=出席不要もしくは欠席

【委 員】2026年 6 月22日現在

職 名	氏 名
委 員 長	西 田 真
副 委 員 長	荒 木 慎太郎
委 員	太 田 智 博
委 員	芹 澤 正 志
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久
委 員	森 垣 康 平

7名

【当 局】

職 名	氏 名
市長公室長	谷 口 雄 彦
経営企画課長兼未来共創室長	浪 華 誠
くらし創造部長	太 田 垣 健 二
地域づくり課長	宮 田 裕 史
こども未来部長兼子育て専門官	若 森 洋 崇
こども未来部次長兼こども支援課長	吉 本 努
こども未来課長	旭 和 則
こども未来課参事	丸 谷 祐 二
産業経済部長	坂 本 成 彦
産業経済部次長兼環境経済課長	瀬 崎 晃 久

9名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局	橋 本 郁 夫
	佐田 美佐樹

人口減少対策調査特別委員会重点調査事項

2026. 6. 22

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 結婚支援・子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等に関する事項

午前9時23分開会

○委員長（西田 真） 皆さん、おはようございます。

定刻前ではありますが、皆さんおそろいでありますので、ただいまより人口減少対策調査特別委員会を開かせていただきます。

梅雨の真っ最中ということで、なかなかうっとうしい時期ではありますが、田植も全て終わって、今、中干しと、皆さんちょっと分からないかも知れませんが、中干しというところに入っております。実りの秋もう間近、もう間近ということないな、まだまだですけど、それを楽しみに、私はもう農業してますんで、そういうことを楽しみに頑張っているところであります。

皆さん、このうっとうしい梅雨空をすきっとされるような当局答弁を期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、着座で進めさせていただきます。

まず、吉本こども未来部次長兼こども支援課長より、本日の委員会を欠席する旨の申出がありましたので、ご了承願います。

それでは、3番の協議事項に入ります。

委員会での発言は、委員長の指名の後、マイクを使用して発言者名を名のってから発言いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

まず、（1）番、事務概要委員会所管事項の現状についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、人口減少対策調査特別委員会2025. 11の中に配信しております資料をご覧ください。

それでは、経営企画課、地域づくり課、こども未来課、環境経済課の順で、説明、質疑を行います。

それでは、まず、経営企画課の説明をお願いします。

市長公室経営企画課、浪華課長、よろしくお願いします。

どうぞ。

○経営企画課長兼未来共創室長（浪華 誠） 事務概要の進捗状況についてご説明をします。

資料の1ページをご覧ください。地方創生（人口減少対策）の推進です。ページの中段以降に概要及び進捗状況としまして、後期市政経営方針及び第3期地方創生総合戦略についての基本的な進め方や推進体制について記載をしております。

進捗状況ですが、新年度がスタートしまして、まだ2か月余りですので、分野別のKPI等の事業実績の把握までには至っておりませんが、事業担当課におかれましては、人口減少対策につながるような各種の事業が進められているところです。

次のページ、2ページをご覧ください。（1）の地方創生戦略会議の開催です。今年度は、8月21日に開催を予定しておりまして、内容につきましては、2020年度から2025年度の間で進めてきました第2期地方創生総合戦略の事業実績の取りまとめや、今年度から取り組んでおります第3期地方創生総合戦略について、KPI等に追加すべき項目がないかなど、委員の皆様からご意見等をいただく予定にしております。

経営企画課からは以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

委員の皆さん、質疑はございませんか。どうでしょうか。よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） また後でも振り返って質問していただいても結構ですので、よろしくお願いします。

それでは、次に、地域づくり課の説明をお願いします。

くらし創造部地域づくり課、宮田課長、よろしくお願いします。

○地域づくり課長（宮田 裕史） おはようございます。

資料3ページのほう、ご覧いただきたいと思います。同じく真ん中辺りになりますが、進捗状況につきましてご説明を申し上げたいと思います。

こちら、地域づくり課、移住定住・結婚支援・若者施策の推進ということで、まず、定住施策の促進でございますが、市の移住定住ポータルサイト「飛

んでるローカル豊岡」を通じまして、豊岡での住まいや仕事、そして、子育て中の保護者にとって関心の高い教育についての情報発信を行っているところでございます。こういった方々に対しまして、移住希望者の土日の対応でありますとか、下見の際の現地アテンド等、暮らしのパーラーに委託をしております、2か月の実績ですが、18件の相談と7件の実際の現地アテンドを実施いたしております。

また、実際に移住していただきますU・Iターンを目指すという方々に対しましては、仕事探しサイト「TOYOOKA WORK STYLE」、あるいはジョブサポ豊岡の窓口等を通じまして、豊岡の事業所の周知を図っているところでございます。

「TOYOOKA WORK STYLE」におきましては、現在87社の企業様の情報を発信し、また、窓口のほうでは2件の相談対応をさせていただいているところでございます。

そのほかに、豊岡や阪神間で行われますU・Iターン就職促進のイベント等への出展によるPRをするということで、今後実施していく予定にいたしております。

一番下になりますが、はたちを祝う会の開催の関係でございます。今年度につきましては、総合体育館、従来は市民会館でございましたが、総合体育館において実施することといたしまして、実行委員会を既に1回目を開催させていただいて、会場も変わるということで、少し早めの動きをしているところでございます。

次のページ、2番目の移住の支援になります。こちら、移住対象者を対象とした来訪支援といたしまして、現時点ではお一人3泊分の支援を行わせていただいているところでございます。

次に、移住をされる際の世帯の引っ越し費用、こちらのほうの助成ですが、1件16万6,500円を支援させていただいております。

そのほかにも市営住宅をお試し居住、あるいは移住促進住宅というふうに目的外利用で活用を図っているところでございます。そちらに記載のとおり利用状況となっております。

続きまして、中ほど、3番、地域おこし協力隊の推進でございます。こちら、5月31日現在で25名の協力隊員を委嘱しているところでございます。7月、来月になりますが、現在調整を進めているところではございますが、新しく10月採用に向けまして、8メニュー、8名の協力隊員を新しく募集を開始するというので、今進めさせていただいております。あわせまして、協力隊員が3年後、卒隊後も豊岡に定住していただくために、隊員の活動や慣れない豊岡での生活への相談や活動上の悩みなどの相談窓口といたしまして、「ちいきのて」をお願いしており、15件の相談があったということでございます。

そして、4番目、下のところでございますが、結婚促進事業の推進といたしまして、マッチング事業といたしまして、出会い機会創出事業「はーとピー」でございますが、5月は但馬広域イベントのために実施しておりませんが、今年度、月1回程度の開催をすることとしており、4月に男性12名、女性7名の参加で実施したところでございます。

お見合い事業につきましては、男性193名、女性109名の登録をいただきまして、5月までに75回のお見合いを実施したところでございます。

最後、5番目の若者の居場所づくり事業の推進でございます。今年度もTOYOOKAミライスイッチを開催しまして、今年度は個別に若者に対してインタビューを実施しまして、その対話やインタビューを通じまして、若者一人一人の思いや関心、将来像を丁寧に聞き取る、そして、その過程で若者と地域との新たな接点を生み出し、今後の活動や挑戦につながるような活動づくりを目指して実施しているところでございます。

最後になりますが、若者交流イベントの実施といたしまして、1年後同窓会と従来申ししておりましたが、今年は20歳同窓交流会、仮称としておりますが、名称を変えまして、昨年度、二十歳の集いに参加された方々を再度、同窓会を開催するような場を持ちながら、大学卒業後のUターンなどにつなげていければというふうに思ったりしております。その

ほかにも、若者を巻き込みながら企画、運営する事業実施へ努めていきたいというふうに考えております。

地域づくり課からは以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

説明は終わりました。質問等はありませんでしょうか。

竹中委員、どうぞ。

○委員（竹中 理） お試し住宅に関してですが、これは若者、子育て世帯ということですが、その分類っていうか、子育て世帯、どんな感じなのか。主に市内の方だけですか、外から来られてる方があるのかどうか。その辺、まずお願いします。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちらのお試し住宅の入居につきましては、市外の方が来ていただくということで、今入っていただいております。そして、今年度から新しく子育て世帯の入居につきましては、こちらまだあまり実績はないようには伺っております、こちら、こども未来課のほうで何かお話ししますか。お試し住宅の、子育て世帯の入居の関係。ちょっと地域づくり課のほうでは十分把握しておりませんが、まだ利用は少ないというふうに伺っている状況であります。以上です。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） 補足していいですか。

○委員長（西田 真） はい、どうぞ。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） 先ほど子育て云々とおっしゃったところは、建築住宅課がやってる事業なので、この事業とは別のものです。

ちなみに、私が1か月ほど前に聞いた情報ですと、子育て世帯が2世帯入居されてるというふうにお聞きしました。その後も増えてるかもしれませんけど、そのときは栄町に1世帯、それから日野辺に1世帯というふうにお聞きをしたところです。以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 分かりました。ありがとうございます。

ございます。

あと部署違うんで分からへんかも分かんないんですけど、修繕中ってなってるのは、入る予定があって修繕をしようとしてるのか、修繕してるから入れてないのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちらにつきましては、こちらまずはこういった修繕につきましても建築住宅課のほうでしていただいているということがございまして、本来の利用者向けに改修をまず優先的に進めていくということになってきまして、例えば栄町住宅でいきますと、2部屋あって、1部屋修繕中ということですので、もし希望があれば1部屋は取りあえず入っていただけるということで、次のストックがなくなったら次に修繕というような形で、修繕の経費っていうのも限られてますので、建築住宅課のほうで優先順位つけながら改修していただいているものというふうに理解しております。

○委員長（西田 真） 竹中委員、よろしいですか。

ほかにありますか。

太田委員。

○委員（太田 智博） 5ページ、4ページから5ページなんですけど、結婚促進事業ということで、いろんな出会い系のイベントが取り組みされてるんですけど、ちょっと分かればいいんで教えていただきたいんですけど、たしか5月の16日ぐらいに、何かこういう出会い系か何かイベントを豊岡市主催でされたように記憶してます。多分チラシが出てたと思うんです。私も、私の勤める会社に独身の人間が多い関係で、ぜひ参加するようになっていうことで促したというか、周知はさせていただいたんですけど、もし分かれば、この5月16日にどのぐらいの参加があったのか、分かれば、後ほどでも結構ですけど、教えていただけたらというふうに思います。以上です。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 説明を少し飛ばせていただいております、失礼いたしました。

5ページの上から3行目、ご覧いただきたいと思

います。こちらのほう、5月16日但馬合同イベントということで、豊岡市主催ではなくて、県と、そして但馬3市2町で合同でさせていただきました。その際、男性20名、女性20名を各定員といたしておりまして、参加がそれぞれ超える応募をいただきましたして、抽せん等の結果、20名ずつ参加いただいたという状況でございます。以上です。

○委員長（西田 真） 太田委員。

○委員（太田 智博） ありがとうございます。

これが5月16日の事業ということで分かりました。すみません。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（太田 智博） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） ジョブサポのほうは、これ、マッチング数ゼロになってますけども、過去の実績ってというのは何でしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） すみません、芹澤委員、聞き落としたんで、もう一度。

○委員長（西田 真） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 今、相談件数2件のマッチング数ゼロなんですけども、ジョブサポですね。（「ジョブサポ、はい、すみません」と呼ぶ者あり）過去にはマッチングはあったりとか、あるとしたらどういう業種なんでしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） あくまでも4月、5月の実績ですので、非常に少なくなっておりますが、これまでからはマッチングということで、就職につながったという事例はございますが、具体的にどのような職種というのはちょっと今持ち合わせてないということがありますので、少し調べさせていただけたらというふうに思います。よろしく願いします。

○委員長（西田 真） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） どこに出てるんでしょうかね。こういう紹介所がありますよというのは。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 取りあえず移住定住のポータルサイト等で、そういった相談窓口ありますよとか、また、今度お盆のときには特別相談の実施ということで、広報とかにも載せていただきながらご案内させていただいているということで、まだまだ周知が足りないというご指摘かなと思いますので、再度PR、周知につきましては検討課題とさせていただけたらというふうに思います。

○委員長（西田 真） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 分かりました。ちょっと実績が分かれば、また教えていただければと思います。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいですか。
ほかにありませんか。

○委員（福田 嗣久） よろしいか。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） この移住定住の関係で、まだこれ、4、5月にいう話だったんですけども、相談件数は18件、現地アテンドが7件というふうに書いておられまして、これはどうですか、継続してやられてるんですけども、雰囲気としては相談件数が多い感じですか。あるいは低調な感じですか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） この件数につきましては少ないというふうには思っておりませんが、もっともっと増やしていきたいなというふうには思っているところがございます。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 件数としては少ない、反響的にはどうなんですか。やっぱり少ないんですか。

反響というか、その感じておられるところは。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 相談件数自身はそんなに少ないとは思っておりませんが、補助金のほうの利用が少ないということで、やはり地元の、近畿圏からの日帰りの方が少し多いようにも聞いたりしておりますので、なかなかその相談件数自身はそんなに少ないというふうには認識はしており

ません。

○委員（福田 嗣久）　そうですか。

○委員長（西田 真）　福田委員。

○委員（福田 嗣久）　分かりました。私もできるだけ外部の人にはいろんな声かけはするんですけども、なかなかやなと思って、やっぱり自分自身では感じておりまして、市の広い窓口ではどうなのかなということが、ちょっと気になりましたんで聞かせていただきました。了解しました。

○委員長（西田 真）　よろしいですか。

○委員（福田 嗣久）　よろしいです。

○委員長（西田 真）　ほかにありませんか。
森垣委員。

○委員（森垣 康平）　お見合い事業の件なんですけど、これ、登録者数、男性１９３人、女性１０９人ってなってますが、これ、一時期と比べたら随分人数が減ってるように感じるんですが、ちょっとその辺の経過を教えていただけたらと思うんですけど。

○委員長（西田 真）　地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史）　こちらのほう、大体どういった組織でも団体でもそうかなと思うんです。幽霊会員、なかなか、登録はされてるけども、実際お声がけしてもその気にならずにというような方たちもおられましたので、昨年度少し整理させていただきまして、実際にお見合いの機会があったらお見合いしたいんだっていうような方に絞らせていただいたということで、若干のお見込みのとおりに少なくなってるという実態はございますが、この皆さんは、どちらかという前向きな方ですので、数というよりは充実はしてるかなというふうに思っております。以上です。

○委員長（西田 真）　森垣委員。

○委員（森垣 康平）　経緯は分かりました。それとボランティア登録者数、これ多分縁結び、旧でいったら縁むすびさんのほうだと思うんですけど、これ、２７人っていうのは、当局としては多い、少ない、どういうふうに解釈されていますか。

○委員長（西田 真）　地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史）　ご指摘の関係で、

私自身も少ないのかなというふうな形で、職員に伺ってみるんですけども、やはり今のマリッジアドバイザー２人が間に入っていただく、このボランティアさんと、そして若い方たちのマッチングしていくに当たりましては、これぐらいの人数が今のところは適当かなと、こちらも幽霊会員ではないんですけども、あまり動いていただけないボランティアさんが増えても、マリッジアドバイザーのほうに負担が増えるというようなことも聞いておりまして、現状としてはマリッジアドバイザー２人で運営していくに当たっては適当な人数だというふうに聞いております。以上です。

○委員長（西田 真）　森垣委員。

○委員（森垣 康平）　ありがとうございました。

○委員長（西田 真）　よろしいですか。

○委員（森垣 康平）　はい。

○委員長（西田 真）　ほかにありませんか。よろしいですか。

私からちょっと１点だけ。４ページの地域おこし協力隊の件なんですけど、８メニュー程度、今度調整といいますか、募集されるということですけど、この８メニュー程度の内容、概略でよろしいんで、ちょっと教えていただければと思います。

地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史）　こちらにつきましては、また１０月からの採用を目指しまして、城崎のボートクラブさんでありますとか、日高を拠点に空き家などの対策を考えておられますガラージュさんでありますとか、今のところは聞いております。またあと起業型ということでもう１人募集を進めていけたらなというふうにも考えてるところでございます。

準備してたんですけども、ちょっと変えちゃいまして、取りあえず、今また調べて、この委員会中にお答えさせていただけたらと思います。すみません、よろしくお願いします。

○委員長（西田 真）　そしたら、残りの分ちょっと後で教えてください。

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）お願

いします。

ほかにありませんか。

太田委員。

○委員（太田 智博） もう1点だけ、度々すみません。同じくこの4ページの地域おこし協力隊の関係なんですけど、定住者が57名、大変多いか少ないかはちょっと置いて、地域の方に定住していただいてるんですけど、様々な地域に入られて、こういう地域おこし協力隊で来られた方って結構前向きな考え方の方が多いので、いろんな取組を率先してされようとしてるんですけど、なかなか地域との連携ができてなくて、自治会に入られていろんな活動はされてるんですけど、自治会からその活動が全く見えてなくて、何か連携ができれば、なおさら地域の活性化も含めていいのかなって思ったりもしてます。大学なんかと、学生と連携をしようと思うと、あくまでも学校側は学生自身に期待を置いて、学校からはそういうアプローチとかは一切しませんというのが大学のスタンスなので、なかなか大学生を地域に受け入れようとする、大変ハードルが高いんですけど、こういう地域おこし協力隊の方々が地域でいろんな、僕たちの知らないところで活動をされて、後々聞くことが多いんですけど、何か各自治会と今定住されてる方の連携みたいなっていうのは、当然これは定住されてる方の個人情報にもちょっと入るとこもあるので難しいとはあるかなと思うんですけど、そういう連携ができれば、ますますそういう地域との連携ができるのかなと思うんで、その辺って難しいですかね。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） ご質問いただきまして、ありがとうございます。

私どもまさにそのところが課題かなというふうに認識しております、やはり移住者だけのコミュニティをつくってしまって、地元の方々となかなか連携図れてないっていう部分も若干あるのかなというふうに考えております。その中で、現役隊員中から先ほどの「ちいきのて」などの相談窓口も通じまして、やはり地域の活動とかの連携を図って

くださいねというような形もお示しはしたりしてるわけなんですけども、なかなかまだそこができてない部分もあろうかなというふうに思ってますが、地元の人間だけでは分からないところは、やはり外部の方の視点で見えるところもありますので、そういったところから化学反応も生じて地域の活性化につながっていくと思いますので、引き続きそこは課題だとして認識して取り組んでいけたらなというふうに思っておりますので、ご理解いただけたらと思います。

○委員長（西田 真） 太田委員。

○委員（太田 智博） 私の住む自治会で、ある事業をしたときに、大学生の方が地域おこし協力隊出身の方に、そこの地域の事業面白いよ、参加したらっていうことを促されて参加された方が3名いらっしゃったんですね。その人とぜひ会いたいと思って、その地域協力隊出身の方、会いたいと思ったけどなかなか、その学生も名前は分からないんですというときに、たまたまうちの今、議員で、そっち系出身の議員がおられたので、そこをちょっと伝って聞くと分かって、その地域おこし協力隊出身の方との連携ができて、地域を盛り上げていこっかみたいな連携ができたんですけど、それってたまたまうちの同じ同僚に地域おこし協力隊出身の方がおられたので連携できたんですけど、なかなかそれもたまたまつながっただけでハードル高かったかなと思うんで、ぜひともそういう連携ができれば、もっともっと高齢化してるような自治会では、こういう連携したいと思ってるところが多いかなと思うんで、ぜひともまた前向きによりしくお願いできたらと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） ご指摘ありがとうございました。

私どもといたしましても、ぜひ地域に受け入れていただけたらというふうに思っておりますので、また、議員の皆様のお力添えもよろしくお願いしたいと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 太田委員、よろしいですか。

○委員（太田 智博） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいですか。

それでは、次に、こども未来課の説明をお願いします。

こども未来部こども未来課、旭課長、よろしくお願いします。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） それでは、資料の6ページをお願いいたします。

こども未来課、こども計画の推進及び妊娠・出産・子育て支援の推進についてご説明をいたします。

現況と課題、基本方針につきましては記載のとおりです。

それでは、進捗状況についてご説明をいたします。まず、1、こども計画の推進です。（1）子ども・子育て会議の開催について、今年度は第1回を8月中旬開催に向けて調整をしております。委員の任期が6月末をもって満了となり、新たな委員の選任を進めているところでございます。

（2）情報発信の強化につきましては、今年3月に本市の子育て、教育に関する先進的な取組を分かりやすく伝えるため、「TOYOOKAみんなで子育ておうえんまっぷ」を作成いたしました。市のホームページでは、6月12日現在で485件の閲覧をいただいております。また、6月25日発行の市広報7月号から毎月漫画を活用して市の子育て施策の情報発信を始めます。SNSでの情報発信にも努め、これまでに2回投稿しております。6月15日現在ではWACCU TOYOOKAこども広場の紹介動画が4万6,372件、おんぷの祭典の動画が2万9,389件と多くの閲覧をいただいているところでございます。

続きまして、2、妊娠に関する支援です。この後に説明いたします実績の数値はいずれも5月末時点のものを報告させていただきます。まず、（1）特定不妊治療費につきましては10件、47万3,715円を助成しております。

（2）特定不妊治療に係る通院交通費助成は、国

の補助金要綱の詳細につきまして県を經由して確認しておりましたが、ようやく6月に入りまして回答をいただいたところでございます。最寄りの医療機関の考え方などは市長の裁量で決められるなど、弾力的な運用が可能であることが分かりましたので、この辺りも踏まえて市の要綱を早急に整備したいと考えております。

（3）不妊治療ペア検査につきましては4件、9万6,225円、不育症治療費につきましては2件、6万7,766円助成をしております。

次に、3、妊娠期における支援です。（1）妊婦健康診査費の助成は720件、567万1,598円、（2）妊婦支援給付金の支給につきましては、1回目が58件、290万円、2回目が53件、275万円となっております。

最後に、4、出産期における支援です。（1）産婦健康診査費助成事業は、産後2週間での受診が42件、20万7,910円。産後1か月での受診に対しましては46件、22万7,000円の助成をしております。

（2）1か月健康診査費助成事業では46件、26万7,750円の助成、（3）産後ケア事業におきましては、宿泊型が14日、49万円、日帰り型が57件、153万5,500円、訪問型が7件、3万5,000円の助成を行っております。

（4）産前産後サポーター派遣につきましては、現在のところ実績はございません。

説明は以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

説明は終わりました。質問等はございませんでしょうか。

竹中委員。

○委員（竹中 理）

教えてください。産前産後サポーターという、派遣はどんなことをするんですか。

○委員長（西田 真） 答弁をお願いします。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 手元に、今ちょっと資料がございませんので、後ほどご説明させてい

ただきます。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 切れ目のない子育て支援って
いうことで、国のほうから、そういういろいろと助
産師さんとか、サポートするっていうことのやつで
はないんですか。これはまた違うあれですか。特別
に要請があったときに、何か手挙げた人にいくサポ
ートですか、これは。

後で、あれでいいです。

○委員長（西田 真） 答弁はどうでしょうか。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 後ほどご説明させ
ていただきます。申し訳ございません。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（竹中 理） いいです、後でいいです。

○委員長（西田 真） そしたら、こども未来課、
旭課長、後でよろしくをお願いします。

ほかにありませんでしょうか。

太田委員。

○委員（太田 智博） 特定不妊治療の交通費助成に
ついてお伺いしたいと思います。

ここに特に交通費助成書かれてませんが、3月議
会の中で質問をさせていただいた際に、国の方針等
がまだ出てないということで、例えば特急料金だと
か宿泊費だとか対象になるのか、所得制限あるのか、
また、最寄りという部分がかなり抽象的で、どの辺
の地域を指すのかっていうところで質問させていた
だきました。

もし資料なければ、後ほどでも結構ですけど、分
かる範囲で教えていただけたらと思います。以上で
す。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 特定不妊治療の交
通費につきましては、最寄りの医療機関の考え方と
いうのが、1か所だけにということではなくて、県
の先進医療と準じたような形で、そこも認定してい
きたいというふうには考えて、近隣の鳥取ですとか、
それから大阪、京都、その辺りも含めて、県内も含
めて、そういったところも対象にしていきたいと思

ます。

それから、交通費は特急料金等も含めて、利用さ
れた方の交通費に応じて支払いをするというよう
な予定で考えております。以上です。

○委員長（西田 真） 太田委員。

○委員（太田 智博） 宿泊費とか、所得制限なんか
あるのかなと思ひまして、もし分かればで結構です。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） そこも後ほど改め
てご説明いたします。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（太田 智博） はい。

○委員長（西田 真） そしたら、こども未来課、
旭課長、後で答弁よろしくをお願いします。

ほかにありませんか。

荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） SNSでの動画の投稿のとこ
ろなんですけど、3月の定例会でもちょっと質問さ
せてもらったんですけど、これ、インスタグラムの
アカウントで発信されたんですか。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） インスタグラムで
の発信になります。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） どちらのアカウントで発信を
されましたか。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） アカウントは、s
a n i n _ k i t a k i n k i というアカウント
になりまして、まさかずさんというインフルエンサ
ーの方がされてるインスタグラムになります。そち
らのほうで発信のほうさせていただいております。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） ということは、豊岡市独自の
アカウントを今後立ち上げられて発信していくと
か、そういう考えはないっていうことでしょうか。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 今のところ、こち
らのインスタグラムのほうを活用して進めていく

ようには考えております。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） まさかずさんのアカウントを使うのは別に悪いことじゃないと思うんですけど、豊岡市、すごいいろんなことをやってると思うんです。移住もそうですし、教育のこともそうなんですけど、どうしても、そちらのアカウントだけだとグルメが多かったり、場所が多かったりで、要は情報が埋もれるような気がしてるんですね。なので、なおかつ豊岡市に特化したものではないので、どうしてもそちらを、豊岡市のアカウントをちゃんと立ち上げられて、今度発信していくっていう考えがあるのかどうか、ちょっと考えをお聞かせください。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） すみません、ちょっと説明が不足しておりまして、「飛んでるローカル豊岡」のほうのアカウントのほうもしまして、そちらからでも見ていただくようになっておりますので、ぜひ一度ご覧いただければと思います。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 分かりました。ちょっと確認してから、また聞きます。以上です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） よろしいですか。

若森部長。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） 先ほど答弁を保留しました、産前産後サポーターのサポート事業についてご説明をいたします。

妊娠中や産後の体調が不安定な時期に育児や生活をサポートする、ヘルパーさんが自宅を訪問して、例えば家事の援助、食事の援助、食事の準備とか片づけとか、それから、育児の援助、沐浴の手伝いとか、あとは兄弟の育児の援助とか、そういったことをする事業でございます。以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） すみません、ありがとうございます。

ということですよ。保健師さんが産前産後にゼ

ロ件で行ってないということじゃなくて、そういったサポートを求めている人があったらそこへ行くっていうことの件数がゼロ件っていうことですよ。

○委員長（西田 真） こども未来部、若森部長。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） おっしゃるとおりで、保健師の訪問はちゃんと訪問しております。これは一定の自己負担をいただいて利用していただく事業でございます。1時間につき自己負担300円を頂いて提供するサービスでございます。以上です。

○委員（竹中 理） 分かりました。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（竹中 理） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 先ほど部長のほうで申しました利用料金につきましては、1時間3,400円。（発言する者あり）

失礼しました。結構です。すみません。

○委員長（西田 真） よろしいですね。

その金額は訂正ということでよろしいですか。違うんですか。

○こども未来課長（旭 和則） いえ、訂正じゃないです。

○委員長（西田 真） ないですか。

よろしいですか。

それでは、次に、環境経済課の説明をお願いします。

環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） お手元の資料、9ページ、10ページをご清覧をお願いいたします。

当課が推進します産業の振興のうち、人口減少対策に関するものとして取りまとめております。概要及び進捗といたしまして、まず、1つ目、地域経済の担い手育成の推進及び稼ぐ力の強化に向けた支援といたしまして、（1）豊岡市経済ビジョンに基づく施策の検討です。5月の19日に第1回の豊岡市経済連絡会議を開催いたしました。商工団体の皆

様や金融機関の皆様には支援機関の皆様として、市内企業の皆様の経済の動向につきましてヒアリングを実施させていただき、今後の取組の方向性について協議を行ったものです。

(2) として、成長を目指す企業や起業に取り組む若者・女性等に関する相談業務の実施です。ビジネス相談窓口 I P P O T O Y O O K A を今年度も開催をさせていただき、4月、5月の2か月間で10日間相談日がありました。相談件数は33件となっています。また、4月13日に起業準備セミナーを実施しました。11名の方に参加いただいたところです。

(3) 番です。起業チャレンジ支援補助金や成長投資・経営革新支援補助金などによる支援です。記載の3つの補助金、それぞれもう締切りは終わりました。申請件数、記載の内容で現在審査を進めております。

10ページをお願いいたします。(4) として、継業バンク等を通じた事業承継の推進についてです。豊岡市継業バンクの運営、6年目になりますが、続けて行っています。5月17日に久方ぶりに成立をいたしました。この夏以降の本格開業を目指されて、現在準備を進めていただいています。あわせて、同バンクに現在5件の案件を募集させていただいて、随時相談に応じておるところです。

(5) 番、奨学金返済支援補助金・インターンシップ受入支援補助金による若手人材の確保・定着への支援です。今年度から新たな事業として両補助金をスタートいたしました。奨学金返済支援補助金につきましては、昨年度の9月議会でご承認をいただきまして、県の随伴補助という形で申請期限を12月末として受付を現在行っています。今現在1件のご申請をいただいています。また、インターンシップ受入支援補助金につきましても、2月末ということで、今後どんどんインターンシップを受け入れる企業の皆さん増えてまいりますので、これから申請件数も増えるものと考えています。

2、特産振興といたしましては、(1)、(2)ともかばん産業に関するものです。人材育成に関す

るものと、豊岡かばんの認知度向上、販路拡大に関するものとして、記載の補助金を交付決定をし、事業を進めていただいています。

環境経済課からの進捗報告は以上です。

○委員長(西田 真) ありがとうございます。

説明は終わりました。質問等ございませんでしょうか。

○委員(福田 嗣久) よろしいか。

○委員長(西田 真) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) 今、課長が説明いただきました中で、まず、第1回豊岡市経済連絡会議の開催を5月19日にされておりますけれども、出席機関が商工会、商工会議所、それから金融機関というような状況ですけれども、前段として、今のアメリカ、イスラエル、それからイランと、この辺りの影響はどんなふうな話が出ておりましたか。ざくっと教えていただけたらと思います。

○委員長(西田 真) 環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長(瀬崎 晃久) まず、影響出るといったのが、まず基本的な考えになります。参考までに教えていただいて、私もそうだなと思いましたが、やはりちょっと地方になりますので、様々なその国の中心で起こっていることから、若干時間が来てから大きな波が来る可能性があるといったふうに伺っております。慎重に現状把握に努めているところです。

○委員長(西田 真) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) 分かりました。その中で、続いて、3番目で起業チャレンジ支援補助金、成長投資促進補助金、あるいは経営革新支援補助金、12件、16件と結構上がってるなと思ってますけども、この辺りは状況が悪い中でも頑張っていこうという方向性が大分あるということでしょうね。そのような状況ですか。

○委員長(西田 真) 環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長(瀬崎 晃久) やはりこういう情勢だから少し待とうかという起業家の皆様もいらっしゃると思います。ただ、こういうときだからこそ、次に向けた準備を進めていこう

という皆様もあって、現在のような申請件数になっているというふうに認識をしています。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） こういう状況だから、より積極的に進んでいこうという感じの話を今されましたけども、そういう声は昨年にも増して強いという感じでしたか。

○委員長（西田 真） 環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） 私、これ個人的な感想にはなりますが、特に豊岡市工業会、事務局をお預かりをしております。その中でもご挨拶として名誉顧問をいただいています先生のほうから、こういうときだからこそしっかりと足元を固めて、次の未来に向けてしっかりと投資についても検討を進めましょうといったようなご発言もありました。

審査をさせていただいている中で、そのような見込みでしっかりと申請をされているような企業も多いというふうに認識しております。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 了解いたしました。

続いて、継業バンクの成立は1件、5月17日にあったということですが、それも含めて、募集中の承継案件が5件というふうにありますけれども、これは多いんですか、少ないんですか。それと、そういう流れが強く出てるんですか。その辺りはどうでしょうか。

○委員長（西田 真） 環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） まず、募集件数につきましては、多い少ないというような判断は今しておりません。それぞれの皆様が菩提があるので跡継ぎをしましたといったところも当然すばらしい取組だと思いますし、やはり今回成立しました1件につきましては、神鍋エリアの地域の民宿といいますか、ペンションになります。その方も三十数年前に都会のほうから豊岡のほうの神鍋でペンションを経営をなさって、それぞれの生活を終えられる、次の後世ということで物件の販売、事業承継ということで第三者承継という判断をな

さって、市のほうに登録をされて成立に至ったということがございますので、事業承継も先ほど申し上げましたようなパターンと、例えば何代か事業をなさって、この際というパターンもございます。また、M&Aという形で企業内同士でそれぞれで成立をしていく場合もございますので、今回この継業バンクとして市の公なものを使ってご登録をいただいている件数、増減につきましては、経緯については推移を見ていこうと思いますが、多い少ないという判断はなかなかしづらいなというのを感じておるところです。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 了解いたしました。ありがとうございました。

○委員長（西田 真） よろしいですか。
ほかにありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 何度もすみません。

起業チャレンジ支援補助金ですけれども、市民相談があって、起業したい人、ちょっと高齢の方だったんですけれども、IPPO TOYOOKAにご紹介したんですけれども、これ、年齢、IPPO TOYOOKAとか若者支援が中心だと思うんですけど、高齢の方が今からチャレンジしてお金借りて、例えば何百万円か借りてしていくっていう、そういうことをやりたいって思う方に対して、年齢制限っていうのは何かあるんですか。私の受けたのはもう65歳ぐらいの方だと思うんですけども。

○委員長（西田 真） 環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） 年齢の制限はございません。ただ、やはり豊岡市として女性の活躍ですとか、若者の移住定住、特に今回人口減少対策というテーマでご報告をさしあげてるとおり、若者の方や女性の方にプラスするような、補助率を上げる、額を上げるといったような推進策は取っております。以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員、よろしいですか。

○委員（竹中 理） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろ

しいですか。

私から1点だけ、ちょっとお聞かせいただきたい
と思います。

かばん産業の人材育成とか、認知度向上の件なん
ですけど、ちょっとざくっとした内容を教えていた
だければと思います。

環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） 1
0ページにかばん産業に関して2つの補助金のほ
うを交付の決定をさせていただいております。この
補助金の趣旨は、まず（1）番といたしまして、人
材育成支援です。こちらにつきましては、豊岡かば
んということの認知、これを向上させるということ
が2つ目で上げておりますけども、まず、やはり人
材不足ということも顕著に起きております。そうい
ったことも鑑みて、以前からアルチザンスクール、
これを市のほうでも応援をさせていただいて、毎年
10名の方の定員で、かばんのたくみをつくるとい
う形で進めております。

ただ、開校しまして今年で13期を迎えるわけ
ですけども、若干入校者数が定員割れをしているとい
った傾向がうかがえたので、まずは都会のほう
で、都市部のほうで豊岡かばんの認知の向上をする
様々な事業に合わせまして、そこで我々のほうも出
張らせていただいて、またアルチザンの方も職人の
方を連れていっていただいて、豊岡のかばん作り、
こういったことをかばんの販売促進やPRと併せ
て場所をつくらせていただいて、推進をさせていた
だいております。結果としまして、今年度、13期に
つきましては入校生、定員いっぱい10名といった
形で進めることができました。

やはり現場の皆様と相談した結果、豊岡かばんの
認知を上げて、それを作れるたくみになれるアルチ
ザンスクールがありますよということを併せてお
勧めするということが非常に効果があるというこ
とで、200万円、この部分につきましてはアルチ
ザンスクールの入校につながる、豊岡でかばんに就
職をしていただける、こういったことを特化したPR
をさせていただいている費用という形になりま

す。

それから2つ目につきましては、認知度向上と販
路拡大ということで、やはり市場は動いております
ので、世界市場も見据えながら、鞆協会の皆様が今
後こういったことを進めていけばより豊岡かばん
の魅力が上がって、売上向上につながるといったこ
とにつきます予算として300万円のほうの交付
を決定しております。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

アルチザンスクールで今年は10人ですけど、定
員割れがあるということでありましたけど、実際に
卒業された方が豊岡市内に残って起業なり、会社に
勤めておられる方は大体どれぐらいですか。パーセ
ンテージで結構ですけど、今までの。

環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） 昨
年までの12期で116名の方がご卒業されまし
た。そのうち60名が市内のかばん産業に従事をい
ただいておりますので、50%以上といった形にな
ります。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

その残りの50%というのは市外に出られて、かば
んに従事されてる、その辺の追跡はできてませんか、
どうでしょうか。

環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） な
かなか12年追っかけるというのは難しいという
ふうに聞いております。都会のほうでご自身で経営
をなさって、それが3年後、5年後、12年後どう
なのかというところまでが分かりかねているとい
った状態です。申し訳ございません。

○委員長（西田 真） 私が聞いとるのは、昔を振
り返るのじゃなしに、卒業されて豊岡市に残られな
い方が、市外に出て起業されとるとか、そういうか
ばんの絡みで働いておられるかということ、ちょ
っとお聞きしております。以前を振り返ってじゃな
しに、その都度、大体はどういう格好で進められと
るか分かると思いますんで、その経緯をちょっと教
えていただければという質問です。

環境経済課、瀬崎次長。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） 失礼しました。おおむねそういう縫製の関係には勤めておられると思います。サラリーマンとしてお勤めの方もありますし、ご自身でなさる方もあるというふうに伺っております。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

せっかくアルチザンスクールでかばんを勉強されて、習得をされて、やっぱりそれを経験を生かしていただきたいというのは、市内に本当は残ってほしいですけど、市外に出られても、そういう経験を踏まえてやっていただきたいなと思っておりますので、その辺も含めてよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかにありませんでしょうか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） ちょっと1つだけ。一番最初にあった、どこだったかいな、経営企画課の2020年の国調が7万7,000ですけども、2025年度はもう大方固まってるんでしょうか。昨年の。

○委員長（西田 真） 経営企画課、浪華課長。

○経営企画課長兼未来共創室長（浪華 誠） 速報値で、少し前に出たと思うんですけど、すみません、ちょっと今すぐ出てこないです、7万1,800人……（「えっ」と呼ぶ者あり）、7万1,800人。

○委員（福田 嗣久） 7万1,800人。

○経営企画課長兼未来共創室長（浪華 誠） はい。ぐらいだったと思いますので、やはり2020年度の国調よりは五千数百人程度減っていたと思います。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） なるほどね。そうすると、例の10年先、20年先、30年先のこの低下する推移がどんな感じですか。それより上回ってるか下回ってるかというのは。

○委員長（西田 真） 経営企画課、浪華課長。

○経営企画課長兼未来共創室長（浪華 誠） すみません、今すぐ、じゃあそれが上回ってるのか、下

回ってるのか出てこないんですけど、8月の会議の際に、神戸市外大の中嶋先生にも委員になっていただいております、先生にもその辺の分析ですとか、をお願いしたいと思っております、後になるんですけど、次回9月の議会の委員会の際にちょっとお時間いただいて、その辺りの報告もさせていただければと思っております。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。また聞かせていただきます。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいですか。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 大変失礼いたしました。太田委員からご質問いただきました特定不妊治療の交通費助成に関してお答えをさせていただきます。

まず、所得制限につきましては、ない、ございません。

それと、宿泊費につきましては対象外ということでなっておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（西田 真） 太田委員、よろしいですか。

○委員（太田 智博） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 先ほど保留させていただいている件、2点につきましてお答えさせていただけたらと思います。

まず、1点、芹澤委員のほうからご質問いただきました、ジョブサポート豊岡の昨年度の実績でございますが、就業相談の関係が43件の方を対象にご相談を受けさせていただいております。そのうち具体的にこの企業どうでしょうかということで職業紹介までいったのが12件、そして、実際にそちらのほうに就職された方が5名という実態になっております。また、就職先ですが、主に高齢者福祉施設というのが多かったり、あと製造業、あるいはまた車の運転員というような形で就職をつなげたというところがございます。

あわせまして、西田委員長のほうからもご質問い

ただいております、この7月から募集をかける10月以降の採用を目指した地域おこし協力隊の関係ですが、先ほどと重ねてになる部分もございますが、城崎のローイングクラブさんのほうが大会誘致等通じて活性化を図っていくということでお一人、そして、コウノトリテラス、コウノトリの郷公園の駐車場にあります、旧来コウノトリ本舗と言ったところですが、こちらのほうの活性化、そして、周遊等で目指すような企画を検討いただくような人をお一人、そして、日高地域を中心といたしました空き家対策に取り組んでいきます件が1つ、そして、但東になりますが、赤花そばの継承の関係でお一人、そして、城崎になりますが、インバウンド対応の円滑に、そして城崎についてよく知っていただけるような形の受入れということでお一人、そしてあと、江原駅前の少し活性化を図っていききたいということで、こちらのコミュニティコーディネーターということでお一人、そして、ケアモビリティーマチづくりということで、福祉と移送のまちづくりにつなげていくようなことでお一人、そして、起業型ということで、合計8名を募集できたらというふうに考えております。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

芹澤委員、よろしいでしょうか。

ほかにありませんか。よろしいですか。

ないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますが、この際、当局から何か発言はありませんでしょうか。

よろしいですか。せっかく出てこられておりますので、ちょっと一言ずつお話をお願いします。

まず、こども未来課参事の丸谷参事、よろしくお願いします。補足でも思いでも、よろしく申し上げます。

○こども未来課参事（丸谷 祐二） 発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

先ほど荒木副委員長からもご指摘をいただきました情報発信の関係です。まず、皆さんもご承知のとおり、非常にたくさんのユーザーを持っておられる、まさかずさんのインスタグラムを活用してより

広く、特に豊岡に限定せずに北近畿地域の方々に豊岡の子供たちが笑顔で生き生きと過ごしているという動画をまず見ていただこうと、豊岡の魅力をより広く近隣の方にも知っていただこうということで、まさかずさんのInstagramでという考えをしております。

それから、「飛んでるローカル豊岡」との連携なんですけれども、これまで人口減少対策でもそうですが、豊岡にどうやって人に来ていただくのか、そういった魅力をいろんな発信をしているわけなんですけれども、子育てしている方にとって、豊岡で育てるっていうのがどういうものなのかというのがイメージできていたのかなという反省を持っておりました。そういった中で、「飛んでるローカル豊岡」とも連携をして、子育てを豊岡で考えている人にも豊岡で子育てする具体的なイメージが持てるような動画を発信しようということで、そういった今取組をしております。

まだまだ素人なものですから、十分なことができてないのかなと思っておりますので、また、いろいろお知恵をお借りをしながら、より広く豊岡の魅力っていうのが発信できたらなと考えております。私からは以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、市長公室の谷口室長、お願いします。

○市長公室長（谷口 雄彦） 来る7月9、10と視察研修の誘いをいただいたんですけども、あいにく公務出張と重なっておりまして、浪華課長を代打で出しますので、ぜひかわいがってやってくださいませ。

○委員長（西田 真） それだけですか。もうちょっと何かありませんか。今年にける思いとか何か。いや、そんな何時間もしゃべれとは言いません。

○市長公室長（谷口 雄彦） 人口減少の地方創生総合戦略1期、2期とつくってきて、今3期目に入ってますけども、がらっと変わったといえますか、これまではちょっとエッジを効かせて、豊岡、論理的に人口減少の原因を追及して、そこに手当てをしていくというやり方でやってきたんですけども、豊

岡だけではなくて、日本全国、地方創生、地方への関心は高まったんですけども、人口流出だとか少子化っていう、根本的な課題には、解決には至っていないというところで、なかなか厳しいところではあるんですけども、ずっと人口減少の成果が出るには長い時間が必要だと言いながら10年たって、なかなか成果も出てないところですけども、新たな地方創生総合戦略を基に取組を進めていきたいと思えますので、よろしくお願いしたいと思います。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、くらし創造部の太田垣部長、よろしくお願いします。

○くらし創造部長（太田垣健二） 何を言おうかな。

今年度入りまして、例えば空き家に関して言いましたら、危険空き家の関係が都市整備部からうちに下りてきました。区長会の事務も総務課からうちに下りてきました。何か仕事は増えたのに人があんまり増えてないみたいところで、職員もあつぱあつぱしながら、ただ、前向きに頑張ってくれています。

特に空き家の関係が去年との比較は、私自身、4月に着任したばかりで、比較のしようがないんですけど、何か相談、電話であつたりだとか、窓口に結構相談に来られてるので、やっぱり地域でそういったニーズっていうのがもう待ったなしみたいな状況になってるんだろうなと思ってます。

課内、部内で協議するときに、時々職員がまだ2か月半しかたっていないからっていうことを言うんですけども、2か月半しかじゃなくて、2か月半も経っているんだから、来年度に向けて新たな打ち手を考えるんだったら夏場の庁内の市長レクとか、そういった機会があるんで、来年度に向けて打ち手をいろいろ考えてくれというのはちょっとお願いしているので、もう少ししたら新たな打ち手なのか、これまでの施策を整理したものであるのか、ちょっとどうなるか分かりませんが、その辺が若干見え出してくるのかなと思ってます。

それから、区長会の事務も下りてきました。コミュニティのほうではビジョンも見直すと、前任の部長が申し上げていました。前任の部長は、制度をい

じくれば何かもう全てがハッピーに終わるみたいなことを申し上げてたんですけど、僕は決してそうは思ってなくて、職員が地域に全然行けてないみたいなどころを感じているところがありますので、まずは職員自身、当然、中間支援組織の「ちいきのて」もそうですけど、どんどん地域に入らせていただいて、地域の声を拾ってきて、地域との信頼関係をつくっていくところがまずイロハのイなんだろうなということを思ってまして、制度をつくって、さあこれでやりましょうよっていったら全てが解決すると勘違いするなよってというようなことは、かなり部内に周知しているところです。

ただ、なかなかこれって、特効薬っていうのが、先ほどの人口減少対策と一緒に、じゃあこの打ち手を打ったから目まぐるしく事が好転するかって、そうでもありませんので、これは我慢強くじっくり腰を据えて取り組むべきことなんだろうと思ってますので、温かい目で見守っていただければありがたいかなと思います。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、こども未来部長兼子育て専門官、若森部長、お願いします。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） 先ほど荒木副委員長からもありましたが、ターゲット層とのコミュニケーションがとても大事だと思っております。従来よく情報発信と言っていましたけれども、情報発信、こちらが伝えるだけではなくて、双方向のものが必要だろうと思っております。そうはいっても、まだちゃんとコミュニケーションの前段となるところでできてないのかなと、しかも何ができてないかという、例えばこども未来部の情報は発信できてるけれども、教育委員会の情報は発信できていない、少なくともあまりターゲットには届いていないんだろうなと思っています。

動画を作るにしても、まずやっぱり自分のところの所掌から入っていく、「子育てのおうえんまっぷ」もこども未来部の所掌のところのマップで現在とどまっています。それを学校教育とか保育とか、そういったところまで広げていって、出す情報の面を

広げていく、かつそれをどういうふう to 双方向にしていくのかっていうことに力を置いて取り組んでまいりたいと思っております。

こども未来部が人口減少にできることという、恐らく子育てに関する不安をなくすることだろうというふうに思っております。様々な不安はありますが、その不安の中に情報が届いてないことによる不安があるんだとしたら、それは最も不幸なことかなと思うんです。サービスはあるのに届いていない、それが知られていない、そこをまず何とかしていきたいというふうに思っております。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、産業経済部、坂本部長、お願いします。

○産業経済部長（坂本 成彦） 先ほど環境経済課のほうから報告させていただいたとおり、関わってきましたIPPO TOYOOKAだとか、それから起業、継業、ステップアップ成長支援というようなことが、決して派手ではないですけど、やっぱり着実に成果は上げてきてるというふうな感触は持っておりますので、これが人口減少に少しでも好影響を及ぼすように、引き続き頑張っていきたいなというふうに思います。

それと、中東の先行きが見えてるようで、見えないようでという、まだまだ不安要素はたくさんありますので、経済の動向をしっかりとこれからも追っていきなというふうに思っているところです。引き続きよろしく願いいたします。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

言い残されたことはありませんでしょうか。

急な発言依頼で、いろいろと丁寧に発言していただきまして、ありがとうございます。

人口減少、本当に多岐にわたりますので、皆さん方と一緒に、私ら委員会含めて一生懸命頑張ってまいりたいと思います。今後ともひとつよろしくをお願いします。

では、よろしいですかね。

それでは、当局の職員の方は退席していただいて結構です。ありがとうございます。お疲れさまで

した。

暫時休憩します。

午前10時31分休憩

午前10時35分再開

○委員長（西田 真） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、(2)番、委員会の運営方針についてです。

委員会重点調査事項、Side Books上の本日のフォルダーの中、次第等の資料4ページ目に配信しております。

改めて今期の委員会重点調査事項について協議をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午前10時35分休憩

午前10時36分再開

○委員長（西田 真） それでは、会議を再開いたします。

人口減少対策調査特別委員会の重点調査事項ということで、3点、移住定住促進に関する事項、2点目、結婚支援、子育て支援に関する事項、3点目、産業振興等に関する事項という3点でありますけど、休憩中に委員の皆さんと協議した結果、このままでいいんじゃないかということでありましたけど、このとおりでご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 特にご意見がないようですので、当委員会の重点調査事項は現行のとおりとし、変更しないこととしたいと思います。よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 異議はないようですので、そのように決定しました。

それでは、次回の委員会で特に調査を進めていきたい項目についてご協議をしていただきたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前10時37分休憩

午前 10 時 37 分再開

○委員長（西田 真） 会議を再開いたします。

次回の委員会の内容ですけど、休憩中に正副委員長に一任ということがありましたので、正副委員長に内容を決めさせていただきたいと思います。それで、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、そのように決定をさせていただきます。

次に、（３）の管外行政視察についてを議題いたします。

日程等は既に委員の皆さんには事務局を通じてお知らせをしておりますが、７月９日木曜日から１０日金曜日で決定しております。

テーマは、人口減少対策の取組についてとして、１日目は岡山県津山市で視察研修を受け、宿泊は倉敷市を予定しています。翌２日目に岡山県総社市で研修を受けます。各視察先への質問は、私と副委員長とで取りまとめ、視察の依頼書等を合わせて提出をしております。

それでは、事務局から補足説明がありましたらお願いいたします。

議会事務局、佐田次長。

○事務局次長（佐田美佐樹） 失礼いたします。

それでは、ちょっと補足ということで、委員長、今、説明いただいたんですけども、資料に行程表を Side Books のほうに入れております。ちょっとお待ちください。

そちらのほう、行程表つけさせていただいております。７月９日８時４５分に市役所の防災公園のほう、市のマイクロバスのほうで出発をしたいと思います。津山市、１日目に向かいます。研修は午後の１時３０分からですので、その前にお昼を取って研修に臨むということになってます。終わりましたら、その日は倉敷のほうのホテルに宿泊するということの予定です。

１０日につきましては、ホテルのほう、９時過ぎ、９時１５分頃に出まして、午前中、１０時から総社

市のほうで研修を受け、その後、総社市内でお昼を取りまして、豊岡市のほうには１６時１５分頃、帰ってくるというような予定にしております。

当局の出席につきましては、先ほど谷口室長からもありましたけれども、室長にお願いしてたんですけども、急遽公務が入ったということでして、経営企画課長の浪華課長のほうに、一応、人口減少対策の取りまとめの課ということでお願いをさせていただいております。

それから、先ほど行程の中で、いろいろと食事場所なんか書いてたんですけども、荒木副委員長のほうに全てお世話になりまして、本当にありがとうございます。予約まで取っていただきまして、本当にありがとうございます。

それから、また後で、マイクロ乗られる乗車場所、一応この市の防災公園言いましたけど、あと日高振興局と朝来の医療センターと３か所で乗れるようなことで考えてますので、またご都合を聞かせていただければというふうに思っております。

それから、研修雑費として２万円、当日徴収をさせていただきます。旅費と合わせて事務局のほうで管理させていただいて、後で精算をさせていただきたいので、ご了承いただきたいと思います。

委員の皆さんには、追ってまた文書のほうで案内をさせていただきます。

説明は以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございました。

議会事務局の佐田次長から説明をしていただきました。この件につきまして質問等はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） よろしいですか。

それで、津山市と総社市のほうの質問事項もアップさせていただきました。皆さん方に質問事項をお願いしとったんですけど、ゼロ件でした。そういうことで、私と荒木副委員長で取りまとめて、ここにアップしておりますので、当日は各津山市と総社市のほうから説明がありますので、それを受けて、また新たな質問をしていただければと思っております。

すので、よろしくお願いいたします。

そして、管外行政視察でありますけど、視察報告書が必要であります。津山市と総社市と、それぞれ担当を決めて視察報告をしていただきたいと思いますけど、どなたか、私がするとかいう方がおられましたらどうでしょうか。ありませんか。

じゃあ、指名でよろしいですかね。よろしいか。

そしたら、竹中委員と太田委員で、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） そしたら……（発言する者あり）

○委員（太田 智博） 僕、先の津山市しますわ。

○委員長（西田 真） 津山市で。

そしたら、津山市のほうの視察報告書は太田委員で、そして、総社市のほうの視察報告書は竹中委員ということで、そしたら、お二人とも視察報告書の件で了解いただきまして、ありがとうございます。

反対するお二人は一人もおりませんでしたので、快くお受けいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、視察報告書の件、よろしくお願いします。

それでは、以上のとおりでお願いしたいと思います。

そのほかにありませんでしょうか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午前10時43分閉会
